

第2回柴田町男女共同参画推進審議会 事前意見調書まとめ

(1) 第3次しばた男女共同参画プランに基づく平成24年度事業計画書についての意見・質問に対する各所管課からの回答について

【大野委員】

各課とも概ね改善する等の回答があり、今後の取り組みに期待が持てる内容でしたが、商工観光課は「商工会、工場等連絡協議会を通じ働きかけていきます。」との回答で質問を片付けているように感じます。どのような内容で、どのように働きかけるのか、もっと詳しく説明がほしいと思います。

【牛澤委員】

回答内容の理由が分かりやすかったです。

商工観光課さんの回答は、もう一步踏み込んだものが欲しかったですが、様々な事業所さん達への対応も必要と思われるので、これからは期待しております。

【小笠原委員】

概ね意見・質問に対しての回答については、良好と思料されます。

ただし、P2、3他の回答によりますと、町のホームページを活用しての情報提供ですが、実際平成22年総務省のインターネット利用状況を見ますと、全国で9,408万人、普及率78%、世帯普及率67%と、残り33%の人は情報を得る術がない状況です。

特に、町民全員に周知するためには、広報誌の利用や回覧文書の活用がよいかと思われます。今後、特に高齢者や子ども達に周知する場合、施設や学校へ掲示すると共に、リーフレットの配置そして施設長、学校長の挨拶の中でも周知徹底を図っていただきたい。

【八島委員】

今後はもっと具体的な回答が求められていくように感じます。

【柴田委員】

<福祉課>

○「障がいのある人」という表記について

・からだの不自由な人を法令用語として「障害者」と漢字熟語をあてているが、少なくとも「害」の漢字は私たち審議委員では使用しないようにすべきだと思う。どうしても漢字を使いたいときは「障碍者」とし「障害者」とすべきでない。福祉課が法令上書類等で公の文書作成では現行の「障害者」は認めてもいいと思う。ただ「第3次しばた男女共同参画プラン、平成24年事業計画書」では「障がい」の熟語で統一すべきと考える。

○「高齢者や障害者への支援」について

・高齢者の支援には、「新聞配達員」「郵便配達員」「宅配員」「電力検針員」「小中学生」「団塊世代(定年退職者)」など福祉課が多種多様に働きかけるようにしたいと思う。特に子どもたちには、足の不自由な一人暮らしや高齢夫婦にゴミ袋を運んで

ゆったり用足しをしてあげたりするように、福祉課と子ども家庭課と教育委員会が横の連携を密にして取り組んでほしい。イギリスにはこういう伝統が残っている。

<まちづくり政策課>

○「情報提供」について

・小中学生対象には学校の先生から、若い人たちにはインターネットから、お年寄りには「ロコミ」から。「ロコミ」とは、地域のさまざまな活動団体（趣味・ボランティア・サークルなど）に町が要請し、その方々から隣近所の地区内に広めるようにする。

<総務課>

○「コミュニティ活動の促進方法」について

・実際女性は町内会では下働きが多く参画になっていない現実がある。参画なら企画運営できるように役をつけ、男性はその後方支援として家事・育児・介護を担う仕組みと理解と協力が要る。ここにこそ、本審議会の調査・研究の大切さがある。

<商工観光課>

○「3億円の使い方」について

・リーフレットやポスターはもう止める。例えば「登米市大網商工振興会」の取り組みを参考にして『働く女性のための支援センター』を立ち上げる。喫茶・相談室・子どもの一時預かりなどを事業として行う。空き店舗、空き家などを利用し全面的に役場の情報・法的保護を受けるようにする。

<商工観光課>

○「男女共同参画推進の話題提供」について

・各事業所等に「パワーハラスメント」「セクシャルハラスメント」「職員間のいじめ」などの女性の権利侵害が起きた場合の対策が速やかにできるよう、商工観光課として調査・研究にあたってもらいたい。

<商工観光課>

○「労働時間短縮」について

・アルバイト、パート等非正規就業者の実態をつかみ、あわせて世紀就業者の長時間労働についても調査し公表してもらいたい。

<総務課>

○「防災に関する女性の参画」について

・イコールネット仙台の宗片恵美子さんの講演会を男性中心の会合や研修会で実現してほしい。

<総務課>

○「防災女性リーダーの養成」について

・『婦人防火クラブ』という名称を『男女防災隊』と名称を変えてほしい。これこそ「男女共同参画事業」の典型だからである。理由は2つ、1つは『3. 1 1』を経験してしまったこと、2つには定年退職する世代がこれから大量に出てくること。以上により『男女防災隊』を組織してほしい。発会式には、イコールネット仙台の宗片恵美子さんにぜひお願いしたい。

<総務課>

○「女性の管理職登用」について

・役場の全男性職員にアンケートをとる。『女性管理職の下で仕事をすることに抵抗があるか?』と。これを公表し役場内で議論する。女性にアンケートをとる。『家事・育児・介護に男性がかかわってくれたら管理職を目指すか』と。これも公表し女性だけで議論する。その後、男性女性代表者が『男女共同参画推進役場力』をテーマにパネルディスカッションをする。

(2) 男女共同参画推進事業「大人の女性力アップ講座」の実施状況及び今後の展開について

①「大人の女性力アップ講座」の募集方法、内容等について

【大沼委員】

当初、企画内容に多少の疑問を持ったが、参加し、参加者の様子やアンケートを鑑みると柴田町ではこのような方向性での企画が受け入れられると思われた。報告書にある①目的、②ねらいは概ね達成できたのではないかと推測する。

個人的に、ひぐちのりこ氏の講座題目にそぐわない言動には違和感を感じた。公の講座なので、今後は吟味が必要かと思う。アンケートの結果にも表れているのではないかと推測する。

【大野委員】

最初に感じたのは、講座参加人数が少ないことです。お金をかけて講師を頼んで10名程度では・・・と思いました。

準備する期間が短かったことと、開催時間、ターゲットの絞り方にも考慮すべきだと思いました。

また、アンケートに参加者の年代も入れていただきたいかったです。

【牛澤委員】

- ・事業所さん内からの出席要請は可能でしょうか。
- ・講座全て参加となると限られてしまうと思いますので、もう少し弾力性があつた方がよいと思います。
- ・働いているからこそ学びたい、スキルアップしたいと思う女性は多いと思うので、休日開講も視野に入れてはいかがでしょうか。

【小笠原委員】

募集年齢については、20歳以上として、特に上限を設けず、各年齢層からの意見、考え、要望を集約するコミュニケーションの場と地域女性リーダーの育成・環境づくりとして講座開催を促進すべきである。

講座内容については、各種カルチャー教室で実施済みですが、参考までにマンネリしている毎日の食卓にひと工夫した料理教室や家財道具の整理整頓収納術教室、庭の草木・草花のガーデニング教室等の開催も一考かと思えます。

【八島委員】

- ・お知らせ版に載せるのが一番町民の目に触れると思います。ホームページや各機関へのチラシ配布やポスターの掲示も多少の効果はあるような気がしますが、口コミで広めてもらえることが一番人が集まるような感じがします。
- ・可能であるならば曜日や時間帯、回数（1回のみ講座など）も変えて何回か開催してみるのも一つの方法かと思います。

【柴田委員】

- ・募集方法は良いと思います。
- ・内容については疑問が残りました。「大人の女性力」とはそもそも何かということ。「大人の女性」というなら、『社会性・政治性・経済性』を発言できる女性ということになるのではないのでしょうか。そう考えると、「骨盤体操」「デジカメ講習」「コミュニケーション」という企画はどうでしょうか。カルチャーセンターなどと同じでは、『大人の女性力』と『大人の男性力』の違いは何でしょうか。ここに『内容』のヒントが隠されているように思います。

【作山委員】

子育て中の母親はいろんなことに意欲的です。町の広報誌、ホームページでの広報は大切です。幼稚園や学校に行っている時間帯だと出席しやすいと考えます。

テーマですが、

- これからの年金問題 ○女性経営者の話
- これからの親の介護 ○ワーク ライフ バランス ○震災復興で頑張っている企業の話

健康、知識、技術の習得等、家族の健康と幸福につながるものに、女性たちは焦点をあてて選びやすいです。継続は力なりです。身近なテーマをどんどん入れて講座を組んでいかれるとよいと思います。

②今回の講座の参加者を、今後の男女共同参画推進事業の中でどのように活かしていくべきか、またその手法について（男女共同参画推進に関する住民活動団体の設置、女性リーダー育成など）

【大沼委員】

活用と運営にあたり、人材登用はバランス良くを旨とするべきではないか。興味のある人に留まらず、既存団体からの推薦の人も組み入れて進めた方が良いと思う。報告書にあるように、先ず目的と活動内容を明確にし、それにより手法については検討すべきと考える。

【牛澤委員】

- ・参加者へアンケートの結果を報告した上で、次回のお誘いをする。
- ・広い分野の女性リーダーとの交流

【小笠原委員】

各種講座の研修・講話を通じて学んだ事を女性リーダーとして、いかに各地区（各集落）・各職場に持ち帰り、周知を図れるかが問題です。また、各組織（女性部等）を通じての末端までの意思疎通が肝要です。

【八島委員】

- ・男女共同参画の会議に参加してもらう。

【柴田委員】

- ・デジカメで『これぞ、大人の女性』『これぞ、男女共同』をテーマに写真を撮り町民に展示する。その後町民のしゃべり場を作り男女共同参画社会とは何かを考える。
- ・女性特有の健康を男性が身体を通して理解していく男性のための講座が必要ではないか。
- ・クウォーター制などをとっている事業者や官公社などを調査し、女性や障がい者が管理職になっている場合のメリットやデメリットを学習すべきと考える。あわせて男性中心の会社運営や政治経済活動などについても考え合いたい。
- ・『3名の方』を大切にしていきたい。本人たちが企画運営したいものを最大限実現させてほしい。その際、安心できる社会の実現、希望の持てる社会の実現、弱い人を大切にできる社会の実現に一步でも近づける催し物で楽しいものを目指そうと。
- ・『福島からの原発放射能避難民』の中の女性のたまり場を作る活動を提起してどうか。孤立しがち、絶望の淵にいる方々を支援するという目的がはっきりとすると、何をしたら良いか方法や準備・計画などは自ずから付いて来ると思う。
- ・今後は具体的な活動拠点作りをアドバイスしたらいい。『女性のたまり場』『全津波避難民支援センター』『働く女性支援センター』『男女共同センター』など、何でも良いから街中に施設を作って活動することだと思ふ。『役場を捨て街に出よう!』

【作山委員】

3. 11後、「防災・減災」はまず家庭から始めようと叫ばれている。今回の講座参加者に、柴田町の防災活動員として活動してはどうか。意欲のある女性の視点で町として取り組むべきこと、家庭で取り組むべきこと等について、会員の中に入っていただき、意見を出し、女性リーダーとしての意識を涵養していけないだろうか。